

# 就学義務猶予免除者等の中学校卒業程度認定試験

令和7年度 国 語 (40分)

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は全17ページです。  
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落<sup>らく</sup>丁<sup>ちよう</sup>・乱<sup>らん</sup>丁<sup>ちよう</sup>及び汚れ等に気付いた場合は、手をあげて試験監督者に知らせなさい。
- 3 試験開始の合図の後、受験地、受験番号、氏名を解答用紙に記入しなさい。
- 4 解答は、各設問の指示に従い、全て解答用紙の解答らんに記入しなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってかまいません。

1

次の1から5までの問いに答えなさい。

1 次の①から④までの各文の——線部のカタカナの部分に当たる正しい漢字を、それぞれのアからウまでの中から一つずつ選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

- |                           |      |      |      |
|---------------------------|------|------|------|
| ① 湖面に <u>ウツ</u> る富士山を眺める。 | ア 移  | イ 映  | ウ 写  |
| ② 会議で決を <u>ト</u> る。       | ア 採  | イ 捕  | ウ 取  |
| ③ 環境問題に <u>カンシン</u> がある。  | ア 感心 | イ 寒心 | ウ 関心 |
| ④ 文章の <u>ヨウシ</u> を捉える。    | ア 用紙 | イ 要旨 | ウ 容姿 |

2 次の①と②の各文の——線部の漢字の正しい読み方を、それぞれのアからエまでの中から一つずつ選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

- |           |       |       |        |        |
|-----------|-------|-------|--------|--------|
| ① 緩やかな坂道。 | ア おだ  | イ さわ  | ウ ゆる   | エ はれ   |
| ② 貴重な体験。  | ア きがさ | イ きおも | ウ きじゅう | エ きちよう |

3 次の①と②の各文の——線部の漢字の正しい読み方を、解答らんにひらがなで書きなさい。

- ① 新しい委員会を設ける。
- ② 話の一部を割愛する。

4 次の①と②の言葉の対義語を、それぞれのアからエまでのの中から一つずつ選び、解答らの記号を○で囲みなさい。

- |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|
| ① 理想 | ア 理論 | イ 思想 | ウ 価値 | エ 現実 |
| ② 複雑 | ア 単純 | イ 単一 | ウ 複数 | エ 丁寧 |

5 次の①と②の各文の——線部の言葉と同じ意味・用法で使われているものを、それぞれのアからエまでの——線部の中から一つずつ選び、解答らの記号を○で囲みなさい。

- ① 幼い妹に私のケーキを食べられた。
- ア よい発言をして友人にほめられた。
- イ 今日は朝早くからお客様が来られた。
- ウ 昔遊んだ公園がなつかしく感じられた。
- エ 目覚まし時計のおかげで朝早く起きられた。

② 有名な本の題名を知っている。

- ア 高原の林の中で鳥の鳴く声を聞く。
- イ 和食は日本人の伝統的な食文化だ。
- ウ 古い電球を新しいのと交換する。
- エ 遊びに行く前に宿題を終わらせたの。

## 2

次の文章を読んで、後の1から6までの問いに答えなさい。記号で答える問題は、それぞれのAからEまでのの中から最も適切なものを選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

### ヘルシーに生まれ変わった現代の漬物<sup>つけもの</sup>

かつての漬物は、一切れでご飯を茶碗<sup>ちやわん</sup>一杯食べられるような塩辛いものが少なくありませんでした。野菜が手に入らない冬でも、あるいは野菜が腐りやすい夏でも、安定して野菜を供給できるように、保存性を最優先に作られていたからです。塩分濃度で言うと、かつては一〇パーセント前後のものが主流で、二〇パーセント超のものもありました。

その背景には、今よりも第一次産業に従事する人が多かったこともあります。農業や漁業、林業など、厳しい肉体労働をする人たちが、塩分を多く欲する傾向があったのです。エネルギー源であるご飯をたくさん食べるためにも、塩辛い漬物が必要だったのでしょう。

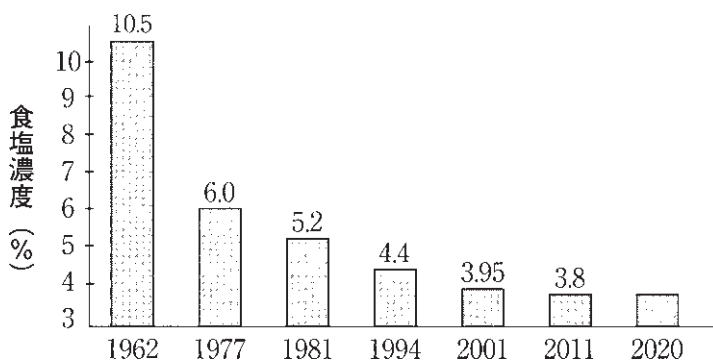
1、今は第一次産業に従事する人の割合が少なくなり、多くの日本人は昔ほど塩分を必要としなくなりました。加えて、減塩運動<sup>注1</sup>の影響もあり、かつてのような塩辛い漬物は喜ばれなくなりました。

そこで漬物メーカーは、おのおの研究を重ねて、漬物の塩分を少なくすること（低塩化）に注力しました。こうして日本の漬物は、数十年の間に大幅に低塩化することに成功したのであります。（グラフ1）参照。

現在市販されている漬物の多くは、塩分濃度が二パーセント前後です。じっくりと熟成させた「古漬け」ではなく、塩分が低い「浅漬け」を中心に供給するようになったことが理由のひとつです。

また、冷蔵設備や流通機関が発達したことに加え、製造過程における抗菌加工技術や包装技術が進化したことも関係します。技術の進歩により、塩分濃度の低い漬物でも、

2 を



出典：東海漬物ホームページ

【グラフ1】刻みしょうゆ漬けの年次別塩分の変化

高めることができるようになったのです。

そもそも、今はほとんどの野菜が年間を通じて流通し、かつ冷蔵庫が各家庭に普及しています。そして今の市販の漬物は、小パック入りで早く食べられるものが多くなっています。漬物を長もちさせるために塩分濃度を高める必要性は、現代では薄れていると言えます。

つまり漬物は、いまや塩分過多な保存食ではなく、フレッシュでヘルシーな野菜の加工品に生まれ変わったのです。漬物の塩分を低くすると、野菜本来の味や香りが生かされるとともに、生野菜とは異なる独特の食感が生まれます。また、色素が破壊されにくくなるので、食欲をそそる鮮やかな色あいに仕上がります。

それだけでなく、低塩の漬物には、野菜本来の栄養成分が豊富に残ります。現代の漬物は、見た目や食感はもちろん、健康機能も向上しているのです。

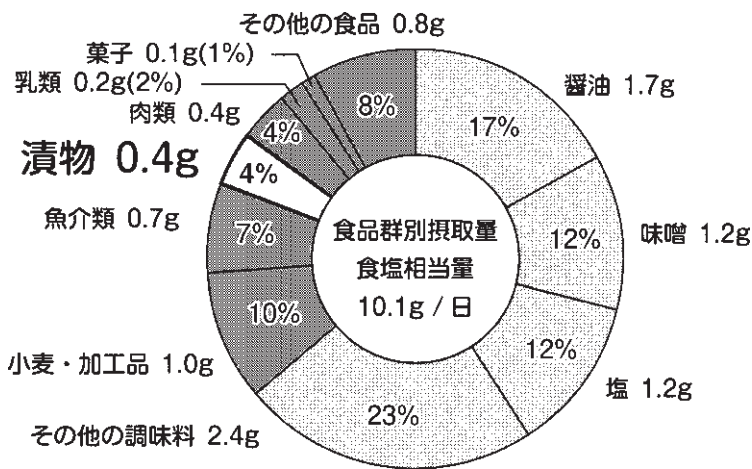
### 「減塩の敵」は漬物ではない

現在の日本の塩分摂取の目標量（食塩相当量）は、成人男性は七・五グラム未満、成人女性は六・五グラム未満です（日本人の食事摂取基準<sup>注2</sup>二〇二〇）。先ほど述べたように、摂取量（食塩相当量）は男性一〇・九グラム、女性九・三グラムですから、まだ減塩の必要があることとなります。

とはいえ、このうち漬物から摂取している食塩は、〇・四グラム程度、全体の四パーセントだという調査があります（**【グラフ2】**参照）。漬物は塩辛い食べ物の代表のように見られ、「減塩の敵」というイメージですが、実はそれほど大きな影響ではないのです。

では、私たちは主に何から塩分をとっているのでしょうか？

グラフを見ると、六四パーセント程度を醤油や味噌、食塩といった調味料からとっていることがわかります。



出典：「国民健康・栄養調査」(令和元年)より作成

【グラフ2】 1日あたりの食品群別食塩摂取量 (20歳以上)

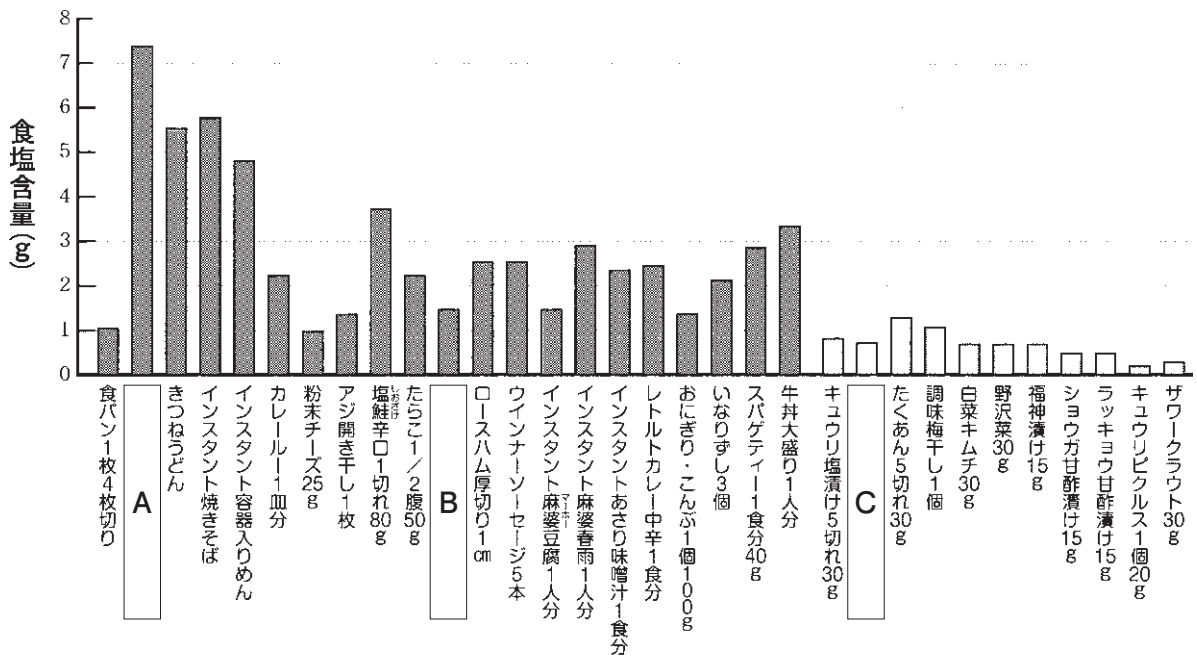
主な食品の一食分に含まれる食塩量を見ると、そのことがさらにわかります【グラフ3】参照。たとえば、とんこつラーメン一杯に含まれる食塩の量は、白菜の塩漬け一食分（小皿一つ分、三〇グラム）の十倍ぐらいあります。十一種類の漬物すべての塩分（二食分）が、はんぺん一枚（二〇〇グラム）よりも少ないことにも注目です。

こうしてみると、塩分を減らすために効果的なのは、漬物を控えることではないと言えそうです。つまり、料理に混ぜたりかけたりする調味料を減らすことが、減塩のいちばんの近道なのです。

（宮尾茂雄『漬物の力』はなぜスゴイ？』による。）

（注1）減塩運動……食塩のとりすぎによる健康への悪影響を防ぐために、食塩の摂取量を減らそうとする取り組み。

（注2）先ほど述べた……この文章が掲載されている本では、この文章より前で、筆者が「現在は成人一日あたりの摂取量（食塩相当量）の平均値は、男性一〇・九グラム、女性九・三グラムです（「国民健康・栄養調査」令和元年）」と述べている。



出典：『塩分早わかり』第4版（女子栄養大学出版社、2020）

【グラフ3】主な食品（常食量）に含まれる塩分量

1 その背景 が指している内容はどれか。

ア 現在よりも野菜が安定して供給されなかったこと背景。

イ 現在よりも塩分濃度の高い漬物が多かったこと背景。

ウ 現在よりも野菜の漬物が塩辛くはなかったこと背景。

エ 現在よりも日本人が塩分を必要としなかったこと背景。

2

1 に当てはまる言葉はどれか。

ア なぜなら

イ あるいは

ウ しかし

エ だから

3

2 に当てはまる言葉はどれか。

ア 保存性

イ エネルギー

ウ 塩分濃度

エ 熟成

4 現代の漬物は、見た目や食感はもちろん、健康機能も向上しているのです とあるが、現代の漬物の「見た目」について次の文のようにまとめた。次の文の ( ) に当てはまる言葉を、文章中から十三字で書き抜きなさい。

現代の漬物は低塩化により ( ) になっている。

5 「グラフ3」の 、、 に当てはまる言葉の組み合わせはどれか。

- |   |   |            |   |            |   |            |
|---|---|------------|---|------------|---|------------|
| ア | A | とんこつラーメン   | B | 白菜塩漬け30g   | C | はんぺん1枚100g |
| イ | A | はんぺん1枚100g | B | とんこつラーメン   | C | 白菜塩漬け30g   |
| ウ | A | 白菜塩漬け30g   | B | はんぺん1枚100g | C | とんこつラーメン   |
| エ | A | とんこつラーメン   | B | はんぺん1枚100g | C | 白菜塩漬け30g   |

6 「減塩の敵」は漬物ではない。より後の文章について説明したものはどれか。

- ア 様々な実験結果を比較しながら、漬物と調味料の共通点を述べている。
- イ 客観的な数値の変化を基に、漬物の低塩化が成功したことを述べている。
- ウ 複数の資料を根拠として引用しながら、効果的な減塩の仕方を述べている。
- エ 筆者が経験した事実を基に、現在の日本の塩分摂取の目標量を述べている。

次の文章を読んで、後の1から6までの問いに答えなさい。記号で答える問題は、それぞれのAからEまでのの中から最も適切なものを選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

涼花<sup>すずか</sup>とミチルは、小学校一年生のときに同じスイミングスクールで練習を始め、仲良くなった。練習を始めて二年目のあたりで急に上達したミチルは選手コースに進み、競技会に出るようになった。その後、三年生になった七月の最後の土曜日、ミチルは競技会に出るが、涼花は応援に行かず、祖母のシズエと喫茶店へ行き、シズエの友達である正子<sup>まさこ</sup>さんと食事をするようになった。

A 店員さんが目礼して背を向けたとたん、おばあちゃんと正子さんはめいめいのグラスをすばやく交換した。

あれ、と涼花はひそかに首をひねった。おばあちゃんがチョコで正子さんがフルーツと聞いた気がするけれど、覚え違いだろうか。

「いただきます」

おばあちゃんたちが声をそろえた。

涼花も自分のスプーンを手にとって、てっぺんの桃をひときれほおばった。やわらかくて甘い。

「ああ、おいしい」

「このパフェはほんとに絶品ね」

おばあちゃんと正子さんは目を細めて言いあうと、またグラスを交換した。それでようやく、涼花にも事情が理解できた。

涼花も、また店員さんも、注文の品を勘違いしていたわけではなかったのだ。まずは相手に味見させてあげるのも、ふたりの習慣なのだろう。いちいち言葉をかわしもしないのは、もはや暗黙の了解になっているからかもしれない。

涼花とミチルも、つい半年前まではそうだった。スイミングスクールのロビーで、アイスを分けあって食べていた。

「涼花ちゃんも、ひとくちいかが？」

視線を感じたのか、正子さんが涼花に言った。

「いえ、いいです」

涼花はとっさに辞退した。仲よしのふたりの間に横から割って入るのは、気がひける。

「おばあちゃんのは？」

「ううん、いいよ。これ、けっこう量が多いし」

1 桃をもうひときれ口に放りこみ、壁の時計を見やった。ミチルは泳ぎ終えた頃だろう。いいタイムを出せただろうか。

B ミチルが選手コースに移った翌月、涼花は競技会を見にいった。

会場は、運動公園の体育館に併設されている屋内プールだった。涼花は観客席から声を囁<sup>か</sup>らして声援を送った。ミチルは背泳ぎで三位に入賞し、平泳ぎでも自己ベストを更新した。

試合の後、ひとことお祝いを言いたくて、涼花は体育館の出口でミチルを待った。ほどなく、スクールのバッグをぶらさげた女子が数人、かしましくお喋<sup>しゃべ</sup>りしながら現れた。ミチルもいた。

ミチル、と涼花が呼びかけようとしたら、

「おつかれさま」

とロビーの反対側で快活な声が上がった。涼花も前に一度会った、選手コースのコーチが、大股でミチルたちに歩み寄っていく。

「ミチルちゃん、よくがんばったね」

よく通る声が、涼花の耳にも届いた。

「初出場で三位って、すごくない？」

「めっちゃ速かった」

子どもたちも興奮ぎみに言いたてる。注目を浴びたミチルはもじもじしている。

「おつかれ」

「今日の女子、調子よかったよな？」

男子の一群に、選手の保護者らしきおとなたちも加わって、ミチルを取り巻く人垣はまたひと回り広がった。子どももおとなも輪になって、にぎやかに話したり笑ったり、やけに盛りあがっている。ひと勝負を終えた後の昂揚<sup>こうよう</sup>もあるのかもしれない。

2 彼らから少し離れて、涼花は突っ立っていた。プールの匂いがつんと鼻をついた。ふだんのレッスンのときはさほど気にならない

のに、自分が泳いでいないせいか、ばかにきつく感じられた。

このまま帰ろうかと考えかけたとき、ミチルがふと目を上げた。涼花に気づき、小さく手を振ってくれた。

涼花がほっとして手を振り返すと、ミチルの隣にいた女子に、値踏みするみたいにじろじろ見られた。ミチルになにか耳打ちしている。あの子は誰、とでも聞いているのだろうか。感じが悪い。

むっとしつつ駆け寄ろうとして、足がとまった。

あの子も含めて、ミチルを取り囲んでいるのは、厳しい練習をともに乗り越えてきた仲間たちだ。ただ観ていただけの涼花が、このこ割りこんでいいんだろうか。

「よし、みんなで写真を撮ろう」

コーチにうながされ、生徒たちがいそいそと二列に並んだ。ミチルは前列のほぼ真ん中に、女子ふたりに挟まれて立った。向かって右隣の子がミチルの腕に腕をからめ、左隣の子は肩に手を回した。

「笑って、笑って」

コーチに言われるまでもなく、みんな笑顔だった。ミチルもひかえめな笑みを浮かべている。

涼花はそつとその場を離れた。

くぐもった振動音がどこからか聞こえてきたのは、三人ともパフェをたいらげ、涼花は紅茶、おばあちゃんたちはコーヒーを飲んでいる最中だった。

「電話じゃない？」

涼花はおばあちゃんのひじをつついた。

「あら、ほんと」

おばあちゃんがハンドバッグからスマホを出した。画面に発信元が表示されている。

「おじいちゃんから？」

なんの用事だろう。<sup>注1</sup>かでん。家電の操作方法がわからないのか、それとも、なにかの置き場所を聞きたいのかもしれない。おじいちゃんは

家のことがほとんどできない。おばあちゃんが家にいるときは直接、いないときは電話で、助けを求める。

「どうぞ、出てあげてよ」

正子さんがすめた。おばあちゃんが腰を浮かせる。

「それじゃ、ちよつとだけ失礼して」

「ごゆっくり」

外に出ていくおばあちゃんを見送ると、正子さんは涼花に話しかけてきた。

「ごめんね、おばあさんのお喋りに長いことつきあわせちゃって。たいくつでしょう」

「そんなことない、です」

たいくつしていたわけではない。いろいろ気を散らしてしまつて、むしろ頭の中は忙しかった。

「パフェもおいしかったし」

なるべく明るい声で、言い足した。正子さんの目もとがほころんだ。

「おいしいけど、大きかったでしょ。おなかいっぱいじゃない？」

「はい、けっこう」

「涼花ちゃんは小柄なのに、食べっぷりがいいのね」

家でもよく言われる。背が伸びる、とパパもママももつともらしく言うけれど、今のところそうでもない。

「それはシズエさんもか。特に、甘いものは別腹注2よね。若い頃は、ここでパフェをおかわりしたこともあったなあ。この年齢になつたらさすがに無理だけど」

二杯目のパフェは、ひとりずつ注文したのだろうか。ふたりで半分注3こしたのかもしれない。涼花がぼんやり考えていたら、遠慮がちに顔をのぞきこまれた。

「大丈夫？　もしかして、今日はなにか他に用事があったんじゃない？」

涼花はぎくりとした。

「ないです」

もしか、時計を気にしているのを見られていたのだろうか。たいくつしていると誤解されたのも、そのせいかもしれない。

「実はね、前にシズエさんと会ったとき、いっぺん涼花ちゃんに会ってみたいなってわたしが言っちゃったのよ。それで無理に連れてこられたんだったら、申し訳なかったなと思って」

「違います」

どちらかといえば、無理に連れてきてもらったのだ。涼花が懸命けんめいに首を横に振ると、正子さんの表情がほぐれた。

「それなら、いいんだけど」

納得してくれたようだ。これ以上詳しく説明しなくてもよさそうだったけれど、なぜか涼花は言葉を継いでしまった。

「友達が」

<sup>4</sup> 正子さんが笑みをひっこめた。涼花の目をまっすぐに見て、うなづく。

「水泳の、選手で」

クロールで水をかくみたいなのに、涼花はひとことずつ続けた。

「今日も、大会に出てて。だけど、わたし、応援に……」

なんて言いたかったのか、そこで急にわからなくなってしまった。応援に行かなくて？ 行けなくて？

<sup>D</sup> 涼花の話に、正子さんは黙って耳を傾けてくれた。

「さみしいね、それは」

しみりと言われて、涼花はびっくりした。なんでわかるんだろう。さみしいなんて、ひとことも言わなかったのに。

涼花の気持ちを言い表すのに、それほどしっくりくる言葉はない。けれど同時に、口にすべきではない言葉でもあった。ミチル本人に対しては言うまでもなく、家族や友達と話するときにも、<sup>5</sup> そう口走ってしまわないように涼花は心がけていた。

すごい。がんばれ。おめでとう。才能を認められ、日々努力を重ねているミチルにふさわしいのは、そういった前向きなひとことだ。さみしいなんて、言っちゃいけない。前へ前へ、ぐんぐん泳いでいこうとしている友達の足をひっぱるようなまねはしたくない。

でも。

「さみしい、です」

口に出したら、体から少し力が抜けた。

(瀧羽麻子『さよなら校長先生』による。)

(注1) 家電……家庭で使うテレビや冷蔵庫などの電気器具。

(注2) 別腹……満腹の状態でもデザートや甘いものなどは食べられること。

(注3) 半分……一つのを半々に分け合うこと。

1 線部AからDまでを実際の出来事の順に並べかえたものはどれか。

ア A ↓ B ↓ C ↓ D

イ A ↓ B ↓ D ↓ C

ウ B ↓ A ↓ C ↓ D

エ B ↓ A ↓ D ↓ C

2 桃をもうひときれ口に放りこみ、壁の時計を見やっただとあるが、なぜか。

ア 競技会に出ているミチルのことが気になったから。

イ ミチルとアイスを食べていた頃が懐かしくなったから。

ウ ミチルが泳ぎ終える前にパフェを食べられるか不安だったから。

エ おばあちゃんと正子さんの話が早く終わってほしいと感じたから。

3 彼らから少し離れて、涼花は突っ立っていた。プールの匂いがつんと鼻をついた。ふだんのレッスンのときはさほど気にならな  
いのに、自分が泳いでいないせいか、ばかにきつく感じられた。とあるが、この表現について説明したものはどれか。

ア 選手であるミチルの様子と応援する涼花の様子とを、描き分けることで対照的に描いている。

イ 体育館の出口でミチルを待っている涼花の様子を、ミチルの視点から鮮やかに描いている。

ウ にぎやかに盛り上がるミチルたちの様子を、慣用句を用いて臨場感豊かに描いている。

エ 涼花がミチルたちとの違いを感じ始めた様子を、涼花の感覚を通して印象的に描いている。

4 目もとがほころんだとあるが、このときの正子さんの様子はどれか。

ア 小柄な涼花が大きいパフェをたいらげたのを見て、心配している様子。

イ 涼花がいろいろなことを真剣に考えていると気が付き、納得している様子。

ウ 涼花がつまらないと感じているわけではないと分かり、安心してしている様子。

エ ぼんやりしていた涼花が急に生き生きと答えたことに驚き、困惑している様子。

5 正子さんが笑みをひっこめたとあるが、このときの正子さんの気持ちはどれか。

ア 説明を続ける涼花を止めようと思っている。

イ 涼花の話をしっかりと聞こうと思っている。

ウ ひとことずつ話す涼花の様子が不快だと思っている。

エ 涼花に気を遣わせたことを申し訳ないと思っている。

6 <sup>5</sup> そう口走ってしまわないように涼花は心がけていた とあるが、このときの涼花の考えを次の文のようにまとめた。次の文の

( ) に当てはまる言葉を、文章中の言葉を使って十字以内で書きなさい。

努力を続けているミチルにふさわしいのは前向きなことであり、「さみしい」のひとはミチルの ( ) ( )  
ことになるので、口にすべきではないと考えていた。

第一中学校の図書委員会では、田中さんを司会にして「学校図書館の本の貸し出し冊数を増やすための取り組み」について話し合うことになりました。次の【話し合いの一部】を読んで、後の1から3までの問いに答えなさい。記号で答える問題は、それぞれのアからエまでの中から最も適切なものを選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

【話し合いの一部】

田中… それでは、学校図書館の本の貸し出し冊数を増やすための取り組みについて意見のある人はいませんか。

木村… はい。私は、最近話題になっている漫画を置くことを提案します。今でも歴史の学習漫画などは置いてありますが、最近話題になっている漫画は置いていません。漫画を読むことが好きな人は多いので、話題の漫画を置けば、借りる人が増えるのではないのでしょうか。

佐藤… 私は、最近話題になっている漫画を置くことに反対です。確かにそれで学校図書館の貸し出し冊数は増えると思います。でも、学校図書館は学習するための本を貸し出す場所ではないでしょうか。最近話題になっている漫画は学習とは関係がないと思います。そのような本の貸し出し冊数が増えても、学習するための本を貸し出したことにはなりません。

西山… 待ってください。漫画は日本を代表する文化で、海外でも人気がありますよ。漫画は置くべきです。

大川… でも、漫画ばかり読んでいたら、文章を読んで考えたり想像したりする力が弱くなるかもしれません。私は反対です。

田中… ちょっといいですか。今は、学校図書館の本の貸し出し冊数を増やすための取り組みについて話し合っているのですが、その点からの意見はありませんか。

山下… はい。私は、学校図書館に置いてある本の魅力を全校生徒に伝えるイベントを開催することを提案します。もちろん、木村さんが言ったように、学校図書館に（ ）

学校図書館に置いてある本を読んでもらいたいのです。なぜなら、私は、今まで学校図書館で借りた本を読んで感動したことが何度もあるからです。そのような魅力のある本が読まれないのは、何だかもったいないような気がします。

1 「」で囲まれた佐藤さんの発言について説明しているものはどれか。

- ア 自分の意見を明確にして、根拠となる事実を順に示すことで反論を述べている。
- イ 自分の意見を明確にして、異なる立場の意見を踏まえながら理由を述べている。
- ウ 他の立場の意見を取り上げて、その問題点を示した上で解決方法を述べている。
- エ 他の立場の意見を取り上げて、自分の意見と比較しながら共通点を述べている。

2 今、学校図書館の本の貸し出し冊数を増やすための取り組みについて話し合っている。その点からの意見はありませんか。という田中さんの発言について説明しているものはどれか。

- ア 多様な意見を引き出すために、様々な観点から考えるよう促している。
- イ 多様な意見を引き出すために、出された意見の共通点をまとめている。
- ウ 目的に沿った話し合いをするために、出された意見を整理している。
- エ 目的に沿った話し合いをするために、話し合う話題を確認している。

3 ( ) に当てはまる山下さんの発言を考え、十五字以上二十五字以内で実際に話すように書きなさい。